

【現代語訳】

殆ど現代語に訳さなくても良からうと思いますので、言葉が可愛かー、と言われている博多弁で訳してみましよう。最初の二行はイントロ(前弾き)に対応していて、物語の前提や概要を伝えるものです。

恋の種は、蒔いた時から色事が芽生えるのさ。

この廓くわに入れば、いずれ「色」などの言葉の意味は分かってくる。

真心のこもつとつと。サービス第一がこの遊廓やけんね、角を立てず丸く収めるとー、粹でカッコイイ世界ちゃけん。

「嘘じゃ」っていうとは、野暮たい。間違うとつと。

そう言うて笑うチヨメ子は、可愛かねー

チヨメ子、チヨメ子って気安すー、言わんとつてー

あたいは花魁おいらんさんが、あそびの仕方や客あしらいも教えてくんしゃったちゃけん。ラブレターの書き方も

よう知つとうとよ。分かつとろうもん。

ああ、もう恥ずかしか、恥ずかしかあ。

ぼーとしとつ、なりふりが可愛かよ。

この挿入歌は「羽根の禿」では、あまり歌われない。

前段の問答歌より少し年長の禿(廓の少女)の思いとして書かれている。

宵の口は、今か今かとあなたを待っているの

そして逢えたら、一夜を過ごして、夜がもう明けてしまう。

鶏にわとりが啼けば、お別れねって皆んな言うわ。

憎まれ口だよね。

あれ、ニワトリが啼いている。

ああ、聞かせたくない。

あなたの耳を手で塞ぎたい。

あの鐘の音は、上野かしら、それとも浅草の鐘かしら。

お手紙、書きたいとよ、彼の君様か きみさまに。

間違えて、他人ほか人にやってはいかんけんね。

憧れの彼の君様のね、

ちゃんと憧れの彼に手渡てわたさんば。

朝は夜明け時から、そう、夜明けから

上衣うわぎと下衣したぎをひつ重ねて着て

チヨメ子は、あれー、袖を振り始めたぞ

ああ、羽子板あそびか。



(数え歌)

つくつくつくには羽根をつくー

ひい、ふう、みい、よう、五重いっぺに七重ななえ

琴じゅうさんげんは十三弦で、ラリー十四、十五つと

手はちゃんと間まば置おかんばとヨッ

ハイ、二十にじゅうと、ひい、ふう、みい、よう、

見てみて、見んしゃい。

松の枝ばかざして、

正月じゃけん、梅の折枝のつもりかねー。

それそれ、それって、振り回し、

おっ、今度は歌い出した

そいは、好いとつ三味線フレーズたい

梅にわいは白しろいよ桜は花よつて。

ま、確かに梅は白しろいを愛めで、桜は花を愛めでるつたいね。

いつも眺めは富士の白雪が良いいってかー

正月しょうがつやんねえー

令和四年五月十二日

大中臣正比呂 拙訳